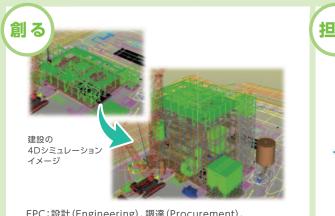
ICTで進化するエンジニアリング 「ものづくり」と「サービス」の融合で くらしの礎を創る・担う

専務執行役員 岡本 敦

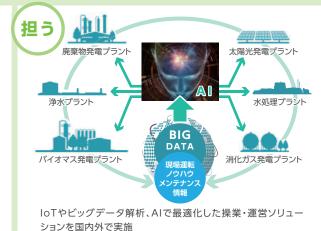
人々の暮らしや産業を支えるインフラの企画・設計・建設・運営を通して、世界中で起こるさまざまな社会課題を解決する― それがJFEエンジニアリングのミッションです。廃棄物処理、水処理施設などの生活に密着したプラントから、バイオマスや 太陽光など再生可能エネルギーを利用した発電施設、交通・物流を担う橋梁まで幅広い事業を行っています。

公共サービスの民営化が世界的に求められる中、当社は、従来の施設を「創る」だけでなく、操業やメンテナンスなど施設を 「担う」運営型事業を積極的に展開しています。IoTやビッグデータ・人工知能(AI)は、当社の「創る」をさらに進化させ、「担 う」を具現化する必要不可欠なコア技術です。時代を先取りしたインフラビジネスを実践するため、これらの技術を積極的に 活用するさまざまな活動を進めています。

くらしの礎を創る くらしの礎を担う



EPC: 設計 (Engineering)、調達 (Procurement)、 建設(Construction)のそれぞれの領域でICTを積極活用



「創る」「担う」を支える 2つのプラットフォーム



データ解析プラットフォーム Pla'cello(プラッチェロ)



Pla'cello

= <u>Plant</u>+<u>Cervello</u>の造語 プラント イタリア語:頭脳

Pla'cello® IT専門知識不要のデータ解析プラットフォーム

2018年3月に開設したグローバルリモートセンター(GRC)で は、お客様のプラント運転データをお預かりし、プラントの遠隔監 視・操業支援・メンテナンスなどのサービスを行っています。

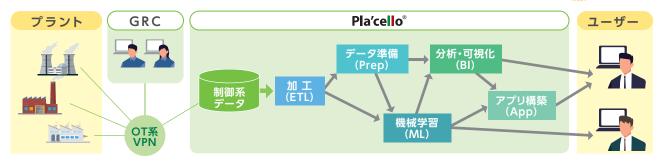
2018年11月には、プラントの画像・時系列データを解析可能な 「データ解析プラットフォーム Pla'cello(プラッチェロ)」を構築 し、運用を開始しました。

一般に、AI・ビッグデータを活用するには「情報学」「統計学」と、 適用分野の「領域知識」が必要といわれています。

Pla'celloは「情報学」「統計学」の高度な知識がなくとも異常う 兆検知、需要予測のデータ解析を可能にするプラットフォームです。

これにより、データ解析に要す る時間を最大90%削減しまし た。Pla'celloの利用により、 2020年度末にはデータ解析を 行える技術者を自社内で300名 まで拡大する予定です。





Pla'cello® の活用が進んでいます

■ 廃棄物発電プラントの完全自動運転

廃棄物発電プラントではごみ質によって時々刻々とプラント の状態が変化するため、安定操業にはオペレータの手動介入 が1日数十回必要でした。燃焼状態のAI画像認識と、熟練オペ レータの介入操作のシステム化により、国内で初めて手動介入 が不要な完全自動運転に成功しました。



自動運転導入前(有人) オペレータが常時監視し、必 要時に手動操作を行う。

自動運転導入後(無人) オペレータに代わり、AIが必要 性を判断して自動運転を行う。

■ 橋梁工事のボルト施工検査自動化

橋梁の現地施工には多くのボルトが用いられ、施工状態は目視 検査により行われています。この検査に、AIによる画像診断を適 用し、「ワッシャーの裏返し」を含む、ボルトの施工不良状態を高 い精度で判定。従来の約1/10の時間で検査が可能となります。

ワッシャーの表or裏・・・判断できますか?



データ解析、アプリ開発を身近なものに

当社ではPla'celloを活用したアイ ディアソン・ハッカソンイベントを開 催しています。イベントでは、「スピー ド感のあるアジャイル開発」や「参加 者意識を高めるための相互投票」を 取り入れ、アイディア出しとアプリ開 発の体験を通じ、AIを使いこなす人 材の育成を図っています。



JFE Voice!

るくする」というものでした。この笑顔の測定にAIを用 いて、スマホで撮影した写真から笑顔度を測定するアプ リをわずか1日で作成でき、本当に驚きました。このよう な簡単な開発環境が全社で使いこなせるようになると、 業務が大きく変革すると実感しました。

社会インフラ本部 津製作所 製造プロセス室 吉井 孝次